

## 公開概要書

受付日	1月18日	回答日	1月28日	担当課	産業支援センター
意見等の内容	<p>水素ステーションの整備について</p> <p>脱炭素社会に向けた施策が今後急速に進行すると考えられる中、自動車の一つの可能性としてFCV（燃料電池自動車）があるが、それに必要な水素を供給する水素ステーション整備は全国的にもまだ進んでいない。</p> <p>そこで、他の県・市町村に先駆けて水素ステーションを設置することで、特に観光需要等に多くの効果を期待できると考える。</p> <p>水素は高圧ガス保安法の適用による保安距離を必要とするが、工業団地の有効利用によりクリアできると考える。また爆発等の危険性も論じられるが、水素は極めて軽いガスであり、漏洩しても速やかに拡散するので、LPガスと比較しても安全性は高いと言える。</p>				
回答の内容	<p>現在、国においては「2050年までに温室効果ガスの排出を前提としてゼロにする」目標を掲げ、脱炭素社会の実現に向けた取組みを進めております。</p> <p>益田市でも学校施設の改築にあたり、快適な室内環境を実現しながら建物で消費する年間エネルギー消費量を実質ゼロにする「ネット・ゼロ・エネルギービル化事業」を採択し、学習環境の充実を図るなど、環境に配慮した取組みを行っております。</p> <p>ご提案いただいた水素ステーションにつきましては、現在、国内での設置数は非常に少なく、山陰地方においては事例がないため、水素を燃料とした移動手段が確立できていない状況であり、全国的に普及を進める必要があります。このため国では、水素をガソリンやLPガスと同程度のコストにすることを目指しており、自動車メーカー側でもFCVの航続距離や燃料補給に要する時間を改善することで、乗用車だけでなく業務用車など幅広い利用が可能になっていくものと思われれます。そしてFCVの改良や普及と同様に、水素ステーションの整備についても民間主導で行われるべきであろうと考えます。</p>				